

# 2026年の主な天文現象

- 1月 4日 **★** 6時 しぶんぎ座流星群が極大(HR=20)、条件悪
- 7日 レグルス食 (未明にレグルスが月に隠される)
- 10日 木星が衝 (真夜中に南中、-2.7等、視直径46".6)
- 2月 20日 水星が東方最大離角 (-0.4等、夕方に観察のチャンス)
- 3月 2日 レグルス食 (夜のはじめころ、レグルスが月に隠される)
- 3日 **おすすめ!** 皆既月食 (夜のはじめ~遅くにかけて)
- 4月 4日 水星が西方最大離角 (+0.3等、明け方に観察のチャンス)
- 23日 **★** 4月こと座流星群が極大 (HR=15)、条件良
- 5月 31日 2026年で一番小さく見える満月 (いわゆるマイクロムーン)
- 6月 16日 水星が東方最大離角 (+0.5等、夕方に観察のチャンス)
- 8~10日 夕方の西空で金星と木星が接近、さらに下方には水星も見える
- 17~18日 **おすすめ!** 夕方の西空で月、水星、金星、木星が並ぶ
- 8月 2日 水星が西方最大離角 (+0.2等、明け方に観察のチャンス)
- 13日 **★** 11時 ペルセウス座流星群が極大(HR=40)、条件良
- 15日 金星が東方最大離角 (-4.4等)
- 19日 旧七夕 (伝統的七夕の日、旧暦7月7日)
- 9月 19日 金星が最大光度 (-4.8等、この頃、昼に肉眼で見るチャンス)
- 25日 中秋の名月 (満月は翌々日の27日)
- 27日 海王星が衝 (真夜中に南中、+7.7等、視直径2".4)
- 10月 5日 土星が衝 (真夜中に南中、+0.3等、視直径19".7)
- 12日 水星が東方最大離角 (0.0等、夕方に観察のチャンス)
- 23日 後 (のち) の月・十三夜
- 11月 15~17日 夜更け~明け方の東~南空で火星と木星が並ぶ
- 21日 水星が西方最大離角 (-0.5等、明け方に観察のチャンス)
- 26日 天王星が衝 (真夜中に南中、+5.6等、視直径3".8)
- 30日 金星が最大光度 (-4.9等、この頃、昼に肉眼で見るチャンス)
- 12月 14日 **★** 23時 ふたご座流星群が極大(HR=60)、条件良
- 24日 2026年で一番大きく見える満月 (いわゆるスーパームーン)

## 皆既月食

3月3日ひなまつりの宵に、皆既月食が見られます。19時前から欠けはじめ、20時過ぎから1時間ほどが皆既の状態となり、子供でも観察しやすい時間に起こります。東の空低いところからはじまるので、なるべく東方向が見やすいところが良いでしょう。赤銅色の月、そして周りの星空の様子の変化もあわせて、ご家族皆様さんで楽しみください。

部分食の始まり 18:50  
 皆既食の始まり 20:04  
 皆既食の終わり 21:03  
 部分食の終わり 22:18  
 ※時刻はどこでも一緒です。

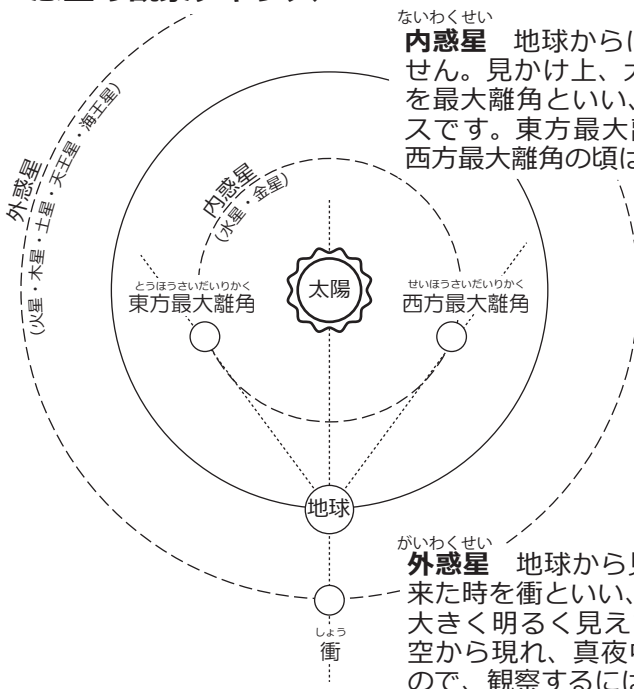
## 月と金星

金星が3月頃~9月頃まで宵の明星として日没後の西空に輝きます。普通の一等星の100倍以上の明るさなのでよく目立ち、月やほかの惑星が並ぶと見事な眺めとなります。月と金星は左表以外に3/20、4/19、5/19、7/17、8/16、9/14に近いところで並びます。低いところに見える時もあるので、なるべく西の空が開けたところでの観察をおすすめします。

## レグルス食

月がしし座の一等星レグルスを隠すレグルス食が起こります。1月、3月とも月が満月に近いためまぶしく観察しづらいですが、望遠鏡を使って挑戦してみましょう。時刻は地域で異なるので、国立天文台の各地予報等をご覧ください。

## 惑星の観察チャンス



ないわくせい

**内惑星** 地球からは太陽の近くにしか見えません。見かけ上、太陽からもっとも離れた時を最大離角といい、この前後が観察のチャンスです。東方最大離角の頃は夕方の西空に、西方最大離角の頃は明け方の東空に見えます。

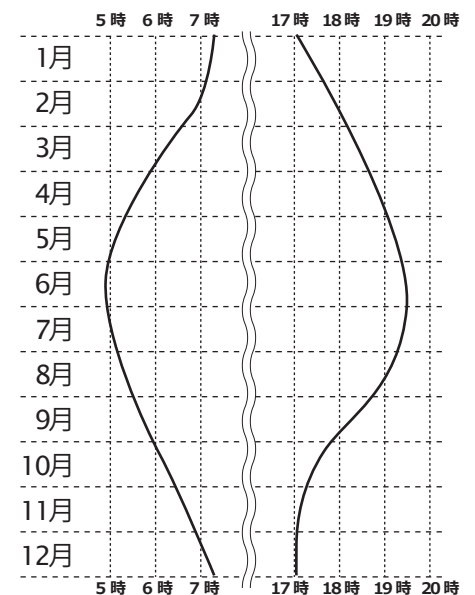
※惑星が見かけ上太陽と同じ方向になる時を、合(ごう)といい、この前後は観察ができません。

がいわくせい

**外惑星** 地球から見て太陽の正反対の位置に来た時を衝といい、地球との距離が近いので、大きく明るく見えます。また、日没後に東の空から現れ、真夜中に南中し、明け方に沈むので、観察するにはもっとも適した頃です。

## 日の出・日の入り時刻のめやす

(島根県)



日の出前、日の入り後の約1時間半ほどは薄明となり、完全に暗くはなりません。